

# つるのおんがえし



26号 平成22年2月発行

発行：感動・創庫  
〒259-1211  
平塚市ふじみ野2-14-6-101  
TEL/FAX:0463-67-1896  
mail:info@kando-soko.com  
http://kando-soko.com  
発行編集責任者：芦川永光

あらら、お正月返上で引越しに没頭していたら、ウソーもう2月う？？ついこないだ初詣に行っただけだということに…って皆さんもそんなこと、思ったりしていませんか？こんにちは、感動・創庫の芦川です。



くま手で『運』をかき集めまへす！



気持ちがいい～

なかなか手強い山道です。

今年の初詣は、新事務所の北部に位置する名山、大山にある「阿夫利神社」に行ってきました。山にある神社ということで、ケーブルカーで上がっていくことも可能ですが、そんなんじゃあご利益がござんせん！というわけで自力で1時間登っての参拝です。2010年は2周年を迎える感動・創庫にとって、何でもトライ！（寅年だけに）する年です。新たな市場に向け

着きました～



阿夫利神社です！

ても積極的に営業していきたいと考えています。景気はまだまだ相変わらずですが、獲物を狙うタイガーのようにじっくり眺めて、行くときにはガブツと行っちゃいたいと思います（意味不明）。

スタッフさんとの交友録  
「冬の味覚を頂きました！」の巻  
ポスティング事業の「いせはらポスト」も昨年10月から始まって、もう4ヶ月目。エリアの拡大も順

調に行って、配付スタッフさんも総勢40人に増えました。毎週火曜日は各スタッフのご自宅へチラシをお届けする日なのですが、写真は配達のおったとある日のものです。

伊勢原市内でこの仕事を始めるにあたり私は、5000枚のチラシを4日間掛けて配付しました。まだまだ残暑が厳しい9月のことでした。そのチラシを入れたたくさんさんのポストの中に写真の人物、綾部さんのお家のポストも含まれていました。綾部さんは私が配付したチラシに、一番最初に電話をくれた人でした。

すぐに面接をさせてもらい、その誠実さに私はその場で「お願いします」と伝えました。ポスティング未経験の綾部さんでしたが、その明るさと年齢を感じさせないパワーフルさで、今やいせはらポスト



↑綾部さんと一緒に

よっこらせっ!!

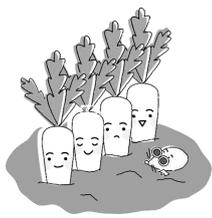


後をついで行くと...  
畑が広がっていました!

トのエース的存在となって頂きま  
した。  
そんな綾部さんのご自宅にチラ  
シをお届けしたこの日。ちょうど  
近くの自家菜園に行くというの  
で、ついて行きました。そこで収穫  
されたのはデカイ大根。「遠慮は  
良いから持ってって!」と両手  
いっぱい大根を頂きました。そ  
の日の夜は、大根づくしだったの  
は言うまでもありません。



ポスティングというのは仕事の  
性質上、「きちんとしてやるの?」  
という疑問がついて回ります。チ  
ラシをきちんと配ったとしても、  
電話が鳴らない事だって当然ある  
からです。私たちいせはらポスト  
には、幸い真面目で一生懸命な人  
たちが集まってくれました。私は  
この人たちとともに、感動・創庫の  
ノウハウも駆使して、伊勢原とい  
う小さな町を元気にします。おい  
しい大根のように、ココに根を張  
って大きく育ちたいと思います。



お~きな大根です!

桃太郎の里は、温かかった。

相撲の話題が世間の注目だった  
一月の末。私は桃太郎のふるさと、  
岡山県におりました。昨年の広島  
でのお話の後、ご縁を頂いた方か  
らのご紹介で、今回もまた菓店さ  
ん向けのセミナーにお呼ばれし  
て、お話をさせて頂きました。

回数が増すと、期待がどんどん  
大きくなるので(嬉しいですよ  
ね)、それにお応えするための準備  
は、一週間前くらいからガツチリ  
作り込みなんです、実は。そんな準  
備の成果もあり、おかげさまで好  
評でした。今回はあまり脱線せず  
に話が出来たので、最後までキレ  
イに終わらせることが出来ました  
(パチパチパチ〜♪)。

ところで桃太郎が流れてきた川  
は、何川?実在するの?と帰りの  
新幹線で気になりました。今度行  
けたら、まずはその疑問を晴らし  
たいと思います。



# 久しぶりの全員集合です！

最近の「つるのおんがえし」はマラソンばっかだねえ、という声がほとんど聞こえてきませんので、今回も元気にマラソンの話題です！！(笑)

1月24日がちょうど誕生日、という友人ともう2人を誘って、千葉マリンマラソンに出場してきました。大学時代の10年来の友人なのですが、会うのがかなり久々で、前日から遠足気分、昼から酒を飲み(オイオイ)、麻雀をし(明日マラソンなのに)、夜中まで漫画を読みまくり(スラムダンク)、夜中の1時に寝ました(汗)。翌朝は7時起床。前日の暴飲暴食を悔やみ、早く寝りゃ良かったと愚痴りながらの朝食でした。

会場は千葉ロッテの本拠地、千葉マリンスタジアムです。5キロ、10キロ、ハーフマラソン、など計15種目。すべての参加者を合わせるとなんと15,000人という大きい大会でした。千葉県の森田健作知事がゲストで来たり、高橋尚子選手などを育てた小出監督などがスターターをしてたんですよ。とにかくスゴくデカイ大会だったんです。

肝心の結果は、と言いますと、4人で走って、二人リタイア。私は完走したものの、タイムは不満(身体が重くて...)。仕事でも何でもそうですけど、準備って大事なんですね。前日であっても甘えちゃいかんと肝に銘じるのでした。ちゃんちゃん！

10年前は、もっとみんな若かった...



自己タイムの早い順に並ぶので、私らのスタートは、遅か後方なのです。



前日の夜

ここはマンガ喫茶か？  
と言わんばかりに  
マンガに夢中です。  
ちなみに皆30代。



3と3で、33歳！

テンションは、  
最高潮です！



レース後。1番右のコージ君は、  
リタイアだったので最初にゴール！



出撃直前

「イッテマイリマス！」



こいつが34歳のBirthday!!  
おめでと〜。

私たちが誰もが

能力を持っている

違うのはそれを

どう使うか

である

Words by ステーブ・ワンダー

アメリカ合衆国ミシガン州生まれの盲目のミュージシャン、スティービー・ワンダー。生まれてすぐに目が見えなくなってしまった彼が、自分の能力をどう使ったかは、皆さんもご承知の通りです。才能とは見えないもの？それとも見えなくしている？彼の言葉を聞いて、自分の才能に気づけるよう、常に意識して生きていきたいと思いました。目の見えない彼にも、自分を感じとることは出来たのですから。

編集後記

こんにちは、寒さがと〜っても苦手な夏生まれの涼子です。最近、足下にも毛布をグルグル巻きにして仕事をしています。早く暖かくならないかなぁ。

私には3つ年下の妹がいます。性格も外見も全く似ていません。小さい頃は、よく私と比べられて「かわいい、かわいい」と周りから言われていた、色白の本当にかわいい妹でした。でも、学生時代に運動部に入り、髪もショートに。歳を重ねるごとに色白のかわいらしい印象なんて全くななくなってきました。趣味は、山登り、バイク、畑仕事を感ずです。

この妹、とにかく人騒がせな子で、たま〜に電話してきたと思ったら、「もう仕事やだ〜」「つまらない」「引越越すする」「結婚できない〜」(笑)「くちやくちや、ゴチャゴチャ」(以下省略)と、半分以上、私には意味の分からないことを言いきります。でも、そのくせ、騒いでいたこ

となんて、次に会う頃にはすっかり忘れてしまう都合のいい性格の持ち主です。最近も電話があったのですが、「そのイヤイヤ病！」と言ったら、「え？私そんなにも言ってる？？」って。

私は、いつもそれに振り回されています。一時期は反抗期で、私となんて一言も話なんてしてくれなかったのに…(ま、本人はやっぱり忘れてるんだらうなぁ)まったく困った妹です。

それを母に言うと、「ま〜、親なんて、先に死ぬんだし、姉妹仲良くね！」だって。

う〜ん。これはずっと続くのか…。妹は、いくつになっても妹ですもんね。



こっちが妹です！